ブラキムラとめぐる！仙台城下町ボヤージュ
【2025年5月6日放送分　川内大工町／川内中/瀬町】

毎月第1火曜日に放送しています。歴史家で街歩きの達人・ブラキムラこと木村浩二さんと、旧城下町に88本ある石柱＝辻標から歴史の痕跡を探る旅です。街歩きのお供には、仙台市役所1階の市政情報センターなどで販売中の冊子、その名もズバリ「辻標」が便利です。88本ある辻標の場所や周辺の歴史が、写真とともに分かりやすく解説されています。

- 新シリーズは、芭蕉の辻から西側の仙台城周辺を歩いています。今月は、大橋で広瀬川を渡ったところ、仙台国際センターの敷地内からスタートです。

- 仙台城は、東に広瀬川を擁する青葉山に築かれました。ここは古くから道が通っていた場所で、中世この地の支配者だった国分氏が「千代城」と呼ばれる山城を築いたエリア。 伊達政宗は仙台入府にあたり、既存の城を利用したようです。
明治に入るとここには東北鎮台、のち陸軍の第二師団が置かれ、太平洋戦争中はB29の標的となりました。国宝の仙台城大手門が仙台空襲で焼失してしまったのは、皆さんご存知のとおりです。

- 仙台国際センターの敷地内を、広瀬川に沿って北へ進みます。
地下鉄東西線の駅手前に小さな橋があり、細くて深い沢を越えます。千貫沢（せんがんざわ）という、青葉山から広瀬川に流れ落ちる沢です。東の広瀬川同様、千貫沢も仙台城の天然の堀として機能しており、北側の結界となっていました。

- さらに北側、仲ノ瀬橋に下りる河岸段丘にある小さなお社が為朝神社です。
平安時代の猛将・源為朝の霊力にあやかったお社で、北方に現れるロシア船を討つため幕府から出兵を命じられた際、仙台藩兵の武運を祈って文化4年(1807)に建立されたものです。
警固の責任者だった仙台藩家老・中村日向の屋敷があったのが現在の仙台二高の敷地であるため、近くにお社ができたのですね。

- 今月の辻標「川内大工町／川内中ノ瀬町」は、仲ノ瀬橋の真下。
川内大工町は、その名のとおり仙台城の築城や営繕を行なうお抱えの大工達が住んだ町。 川内中ノ瀬町は、この場所の広瀬川にかつてあった大規模な中洲に面した町です。
今は埋め立てられてグラウンドになっていますが、広瀬川はここで2本に分かれ、中洲を経由する形で橋も2本架けられていたのです。

〈文・佐々木淳吾〉